

## イノシシにまつわるうわさ話

鳥獣対策の仕事をしていると、農家の方や住民の方から、イノシシに関する色々なうわさ話を聞きます。今回は、そのなかでも対策に影響しそうなものについて説明します。

### 特定の色や臭い、音や光を嫌がる？

結論から言えば、特定の何かを嫌がる習性を持っているわけではありません。急に知らないものが置かれたり、知らないものの臭いがすると警戒するというだけで、一時的に出没が防げても、長期的な効果は期待できません。もし、皆さんが普段歩いている道に、突然怪しげなお化けの描かれた看板が出現したら、不気味に思うでしょうし、警戒もすると思います。でも、その看板がずっと置かれていて、何の害もないとわかれば、いずれ日常の景色になって、前を通っても何とも思わなくなるのではないのでしょうか。それと同じで、すぐに慣れてしまうのです。

また、自然の中に餌が少ない時期は、イノシシも生き残るために必死です。今日食べなければ死んでしまうという日もあるかもしれません。そんなイノシシにとっては、いくら警戒させるようなものがあったとしても、畑の作物の魅力が勝ってしまうのではないのでしょうか。野生動物への対策は、手軽な対策だけだと、太刀打ちできません。環境整備や防除、捕獲などを根気よく続けましょう。



### ブタと交配して多産になった？

そもそも、イノシシを家畜化したものがブタです。なので、イノシシとブタが交配しても、その子孫にたいした変化は起きません。野生動物を調べるために、自動撮影のカメラを設置しているのですが、10頭くらいの子どもを連れてイノシシが撮影されることがあります。しかし、よく見ると、大人のイノシシも複数頭撮影されていることが多いのです。これは、大人メスのイノシシが複数で群れていて、それぞれの子どもが一緒に行動しているだけなのです。でも、このような群れを目撃して、大人メスが複数いることに気付かなかつたら、子どもの多さに驚くでしょうね。

また、イノシシが1年に2回子どもを産むようになったと聞くことがありますが、イノシシは、子育ての期間中は妊娠しません。しかし、春に子どもが生まれて、その子どもが何らかの理由で全部死んでしまったら、また妊娠して秋に子どもを産みます。この性質は、ブタも同じで、元々そういうものです。ですから、年に2回子どもを産むイノシシがいても、特殊な進化を遂げたスーパーイノシシになっているわけではありません。対策してもきりが無いとは思わず、やはり根気よく対策を続けましょう。

イラストも…!

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯舘村の主担当となりました。

## 飯舘牛の誕生

歴史の散歩道

村一丸のブランド化

「飯舘牛」のブランド化は、第3次総合振興計画（昭和60年発効）の策定にあたり、若手村民が議論した中から生まれた事業でした。昭和60年の肉用牛の飼育戸数は765戸。飼育頭数は4000頭を越えていました（農林業センサスより）。村は、関係機関と協力し、繁殖・肥育・加工販売までを村内で行う体制を整え、牛肉の宅配事業「ミートバンク」をスタート。定期的に新鮮な飯舘牛を味わってもらおう会員制のサービスで、昭和60年4月1日には出発式を行い、約750戸に第1便を発送しました。昭和61年3月には東京都でキャンペーンを実施しました。銀座の三笠会館で継続会員60人とマスコミを招いて飯舘牛パーティを開催。新宿では、早朝に村を出発した山田健二村長（当時）と関係

職員が、ランチタイムで行き交う人に「おいしい飯舘牛をどうぞ」と街頭でステーキを振る舞いました。「飯舘牛」は、村内で肥育された黒毛和種の肉用牛でA3ランク以上のものを「飯舘牛」、A4・A5ランクのものを「特選飯舘牛」として販売しました。その後も品種改良や肥育技術の向上に関係機関が一丸となって取り組み、村は平成7年に畜産技術センターを設置。消費拡大に向けた事業も数多く展開しました。村内でも毎夏牛肉を味わうイベントを開催し、県内外から多くの人が訪れました。震災と原発事故による「飯舘牛」の喪失は余りにも惜しいことです。村では現在12軒の畜産農家が黒毛和種の生産に取り組んでいて、「いいたてのうし」を考える会が新たなブランドの確立に向け協議を進めています。



平成7年に村民の森あいの沢で開かれた「第11回いいたて牛まつり」。夏の恒例行事として定着していました。



昭和60年の「大火山牧場フェスティバル」には県内外から約2,000人が来場。写真は牛肉パーティの様子。

今年もたくさんの方々に交流センターを利用いただきました。ありがとうございました。来年もよろしくをお願いします。



問 生涯学習課 ☎0244-42-0072

公民館図書として使命を終えた本や、蔵書にならなかった本、学校図書室のリサイクル本などを交流センターのロビーで配布しています。気になった本はお持ち帰りいただくことが可能です。ぜひ手に取ってみてください。

交流センターをご利用の機会に、ぜひお立ち寄りください。



ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

古本市やっています！